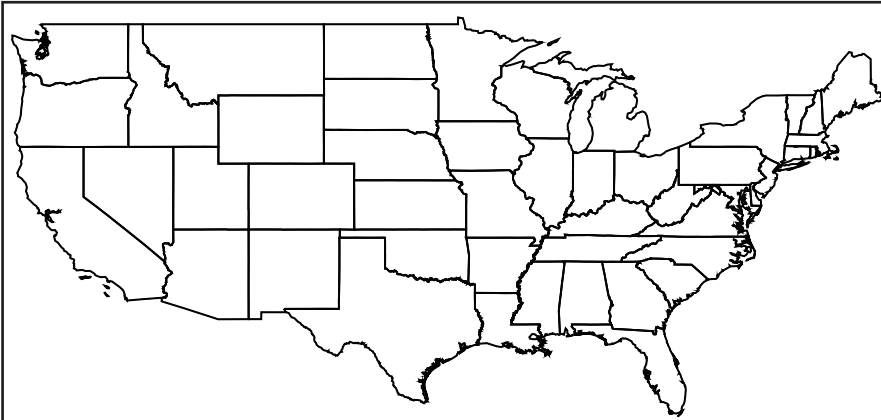


アメリカ合衆国（本土）の農業地域の広がりを予想しよう

年 組 番

1 酪農地帯



【自然環境】

- ・他の作物栽培が難しい冷涼な地域（1月の平均気温 0℃未満＝冷帯）を中心として広がる。
- ・他の作物栽培が難しいポドゾル、ルビソルなど痩せ土が広がる地域で行われている。

【人文環境】

- ・酪製品の多大な需要が期待できる人口規模の大きな都市、農業市場の近くに広がる。
- ・付加価値の高い酪製品を販売しているため、比較的地価が高い地域でも成立する。

2 綿花地帯



【自然環境】

- ・亜熱帯原産の作物のため、とくに生育期の夏には高温（7月の平均気温 25℃以上）が必要。
- ・湿潤な気候が栽培に適し本来は、年降水量 600mm 以上の地域で栽培。ただし現在では灌漑の発達により、降水量の少ない地域でも栽培が可能となっている。

【人文環境】

- ・かつては綿摘み作業が大変であったため安価な黒人労働力が入手できる地域で栽培が盛んだった。ただし近年はコットンピッカーの普及で、それほどの労働力は必要とされていないため、産地が移動している。

3 果樹栽培地帯



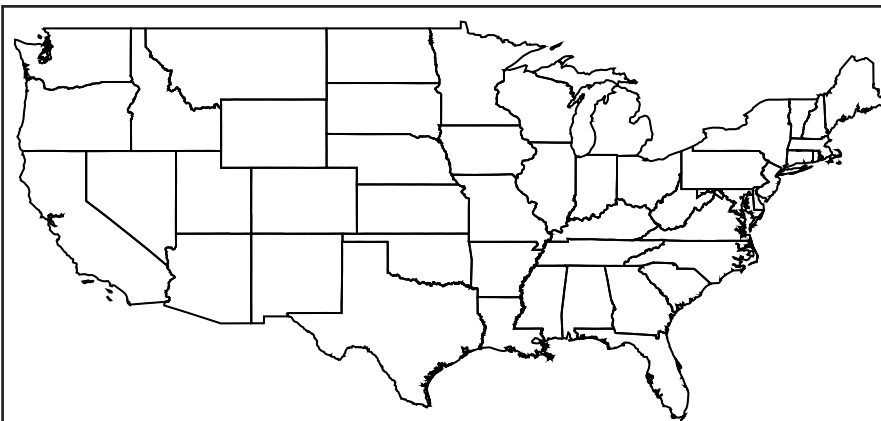
【自然環境】

- ・地中海性気候の分布する地域では温帯果樹（ぶどう・オレンジ・グレープフルーツなど）の栽培が盛ん。
- ・熱帯気候の分布する地域では熱帯果樹が栽培。

【人文環境】

- ・自然環境が適地であれば、比較的市場から離れた場所でも、産地として成り立つ。

4 トウモロコシ地帯



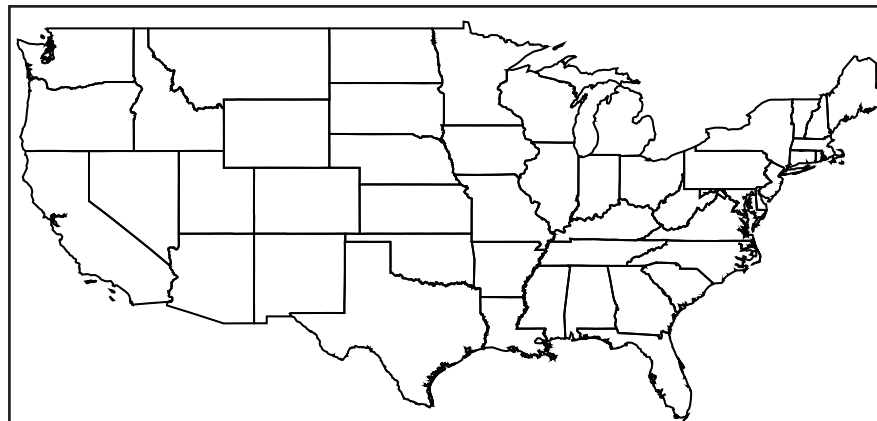
【自然環境】

- ・自然の状態では、年降水量 750mm 以上の地域で栽培されている。ただし灌漑の発達により、降水量の少ない地域でも栽培が可能となっている。
- ・比較的温暖で、肥沃なプレーリー土などが広がる地域が栽培の中心。ただし黒色土・栗色土の地域でも栽培が可能である。

【人文環境】

- ・家畜飼料、バイオ燃料としての需要が膨大であり比較的地価の高い地域でも栽培が広がってきている。

5 小麦地帯



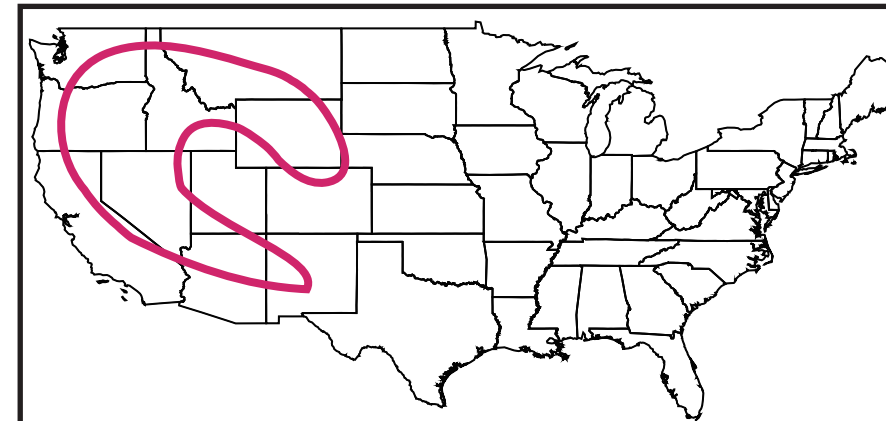
【自然環境】

- ・年降水量 500mm 以上～750mm 未満の半乾燥地域で盛んに栽培されている。ただし現在では灌漑の発達により、降水量の少ない地域でも栽培が可能である。
- ・黒色土・栗色土などの肥沃な土壌のもとで栽培が盛ん。
- ・低平な土地が広がる平地部や、盆地などで産地が広がる。

【人文環境】

- ・合衆国の場合、小麦は重要な農産品のため、比較的地価の安い地域で大規模栽培されている。

農業地域の予想範囲の【記入例】



【自然環境】と【人文環境】をヒントとして、上図にある【記入例】のように、それぞれの農業地域の広がりを予想しなさい。ただし「農業地域」とは、作物の収穫面積が他の地域と比べてとくに多い地域、あるいは乳牛など家畜の飼育割合が他の地域と比べて特に高い地域とする。